

# 草木ダムでは、洪水期（7月～8月）に備え、準備をしています

| 令和2年6月17日

## 01 洪水対応演習

5/12～13の洪水対応演習に始まり草木ダムでは7～8月の洪水期に向けて様々な訓練を行っています。

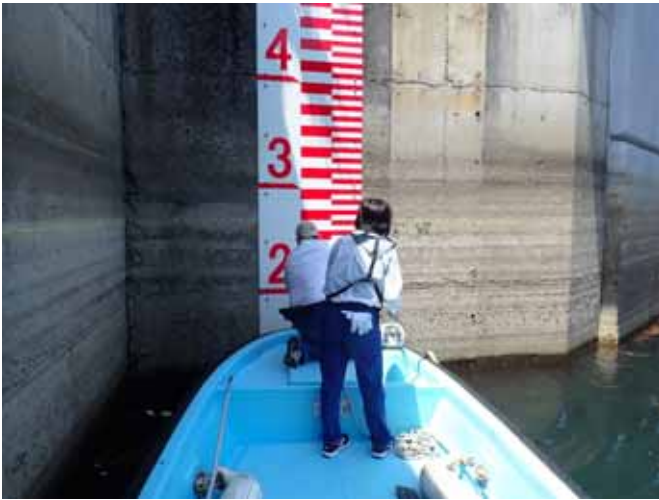


草木ダムでは、台風や前線に伴う大雨が増加する7月～9月の洪水期に備え、様々な訓練を行います。主な訓練のスタートは、5/12～13に実施する「洪水対応演習」です。大型台風による大雨を想定し、気象、水象水文データから適切な洪水調節を行う一方で、刻一刻と変わる草木ダムの状況を下流関係機関へ伝達していきます。

6月はこのほか警報巡視訓練や、停電の際に3日間稼働可能な非常用発電機の取扱い説明や、水質事故による湖面作業を想定した船舶操縦訓練などを行ってダムを管理する職員にとっては忙しい時期が続きます。今年は事前放流を実施することから、更なる訓練を重ねながら備えています。

## 02 ダム附帯設備の点検（量水板の清掃）

量水板はダムの水位を計測する最も基本となる設備です。現在は、自動観測設備により計測を行っていますが、見やすいように清掃を行うなど万々に備えています。



## 03 船舶操縦訓練

湖面での水質事故や法面の状況などダム管理に船舶は欠かせません。免許取得後も習熟することが重要なことから訓練を重ねています。



## 04 警報巡視訓練

草木ダムから高津戸ダムまでの約 20 kmの渡良瀬川区間には合計 21 ヶ所の警報局が設置されています。台風などの大雨の際、ゲートによる洪水調節が行われますが、放流による川の増水知らせる放送と警報が発せられます。また、釣り人などにも巡視しながら注意を呼びかけています。これらの警報車の設備に慣れるように訓練しています。

